

受験番号

2025年度入試

神戸国際中学校 A―Ⅱ選考

国語

(2025年1月18日実施、50分、100点満点)

(注意)

- 1 解答用紙と問題冊子の両方に必ず受験番号を記入してください。
- 2 全ての問題に解答してください。
- 3 解答は全て解答用紙に記入してください。記入方法を誤ると得点にはならないので、十分に注意してください。
- 4 試験終了後、解答用紙と問題冊子の両方を提出してください。

【一】 次の文を読んで、後の問いに答えなさい。解答に字数の指定のある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として数えます。

(本文に一部表記を改めたところがあります。)

最近の新聞によると、三〇歳を過ぎてもaドクシンで親と一緒に暮らし、親に身の回りのめんどうをみてもらうのがあたりまえだと考えている子どもが増えているそう。こんなことは最近の日本にbトクユウのことかもしれないが、動物界で人間の子どもがもつとも手がかかるのは事実だろう。

さまざまな動物を調べてみると、親がどれほど子の世話に手間ひまをかけるかには、①大きな変異が存在する。あるものは、産みっぱなしで何の世話もしない。ある種は片親だけが世話をし、その場合、母親だけのものと、父親だけのものがある。また、両親がそろって世話をするものもあり、両親だけでなく、兄や姉なども含めて家族全員で下の子の世話をするものもある。およそ、考えられる組合せはすべて存在するようだ。

哺乳類は、雌が※胎盤をもち、妊娠・出産・授乳を行うので、必ず、母親による世話がある。雌が体内に卵を保持し、子になってから出産するという方式(胎生)は、子の生存率をあげるといって非常に効率がよい。そこで、哺乳類でなくとも、グッピーなどの魚類やマムシなどの爬虫類の中にも、胎生はみられる。巻き貝のタニシも、卵ではなく小貝を産むので胎生である。

(A)、これらの多くは、体内に卵をしばらく保持していると

いうだけで、卵胎生と呼ばれており、真に胎盤があるわけではない。ところが、非常に「原始的」な生き物でありながら、立派に本物の胎盤をc備えて妊娠・出産する動物がいるのである。それは、Onychophora(つめ足類)と呼ばれる夜行性の小動物で、一見したところ、ミミズにイボイボの足がはえたような格好をしている。つめ足類の※系統関係はよくわかっていないが、※節足動物と※環形動物とをつなぐ※ミッシング・リンクではないかと考えられている。大きさは一四ミリから一五〇ミリ程度、夜に歩いてコオロギなどの虫を食べる。虫を捕まえるときには、至近距離からゴムのような粘液を噴射して相手をまひさせるのだそうだ。

② つめ足類は、南インド、ヒマラヤ、マダガスカル、コンゴ、中南米、オーストラリア、南アフリカ、ニュージーランドに分布している。この奇妙な分布のしかたから、彼等は、大昔のゴンドワナ大陸の住民の生き残りであることがdスイソクされる。ゴンドワナ大陸とは、※古生代から※中生代にかけて南半球に存在した大陸のかたまりで、先にあげたような現在の大陸の部分が一つに合わさっていたものである。つめ足類はこの大陸上で太古に進化し、ゴンドワナ大陸がいくつにも分かれて動き出したとき、それぞれの「破片」に乗せられて自らも世界に分散したのだろう。

このような、いわば「原始的」な生物なのだが、彼等のほとんどは胎生である。(B)、おもしろいことに、旧世界に分布するつめ足類のほとんどは、胎盤をもたないタイプの胎生であるのに、新世界に分布する種類はすべて、卵管の壁に付着した本当の胎盤をもつ

ており、それを通して胎児を育てる。つまり、この卵管は子宮のような構造になっているのである。

では、妊娠期間はどのくらいなのだろうか？生物が暮らしていく時間※スケールは、その生物のからだの大きさと深く関係している。ふつう、大きい生物にとつては時間は（C）と流れ、小さい生物にとつては（D）と流れる。だから、ゾウは（C）成長して長生きするが、ネズミはさっさと大きくなって早死にしてしまう。それから考えると、この小型のミミズ程度のつめ足類の妊娠期間など、ほんの数日か数週間だろうと思うのだが、実は、なんと一五ヶ月も続くのである。そして、雌の子宮の中には、さまざまな発達段階の※胚がいくつも入っているというので、雌は、一生のほとんどを妊娠して過ごしているに違いない。彼らの寿命は、少なくとも数年はあるようだ。

胎生である場合には、それは③たいへん効率のよい育て方なので、たいていの場合、母親の世話だけで十分である。（E）、父親は必要ないことが多い。しかし、卵を体外に産む卵生の場合には、④条件が厳しいと、子の生存率を上げるためには父親による育児参加が必要となる。甲殻類の仲間の※等脚類という動物の中にも、父親が子育てに全面協力するものがあるが、それは、北アフリカや小アジアの砂に住むワラジムシの一種（Hemilepistus reaumuri）である。彼らは、もつとも乾燥した地域に住んでいる甲殻類であり、地中に穴を掘って中で暮らす。暮らした場所は比較的限られているので、住居の穴をめぐる激しい争奪戦がある。そこで、住居の穴

をつねに確保しながら、なおかつ外にでかけて餌を食べるためには、夫と分かれ、その一部が保育所にあてられる。雄も、雌も、穴を掘張したり、※修繕したり、子に餌を与えたりする仕事を協力して行なう。共有財産である穴を守ってこそ初めて繁殖が可能なのであり、彼らは、一生続く一夫一妻である。

親がどれほど子の世話をするか、どれほど複雑な家族生活が営まれるかは、生物の系統上の位置とは関係がない。人は、すぐ自分たちに引きつけて考えてしまいがちだが、高度な認知や感情が発達しているかどうかと、親子や家族のきずなの強さとは、直接の関係はないのである。

（長谷川 真理子 『科学の目 科学のこころ』）

※胎盤：哺乳動物が妊娠したとき、母体の子宮内壁と胎児の間にあって両者の栄養・呼吸・排泄などの機能を媒介・結合する盤状器官。

※系統：生物の種あるいは群の進化の過程での由来。

※節足動物：昆虫・ムカデ・ヤスデ・クモなど、多くの体節があり、外骨格をし、その内面に筋肉が付着する。

※環形動物：ゴカイ、ミミズ、ヒルなど、前後につらなる多くの環節からなり、細長い。

※ミッシング・リンク：生物の系統進化において、現生生物と既知の化石生物との間をつなぐ未発見の化石生

物。

※古生代…地質時代の区分の一つで、約五億七千万年前から二億四千万年前まで。

※中生代…地質時代の区分の一つで、薬二億四千万年前から約六千万年前まで。

※スケール…大きさの度合い。

※等脚類…甲殻類の一目。ダンゴムシ、フナムシなど。

※胚…多細胞生物で、受精後に発生を始めた卵細胞・幼生物。

※修繕…つくろって直すこと。修理。

問1 || a s eについて、カタカナの語は漢字で、漢字の語はその読みをひらがなで答えなさい。

問2 (A) (B) (E)に入る語として適当なもの次のア～エからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

ア　そして　　イ　つまり　　ウ　しかし　　エ　だから

問3 ―①「大きな変異」とありますが、これはどんな違いですか。次の文に続くように四十五字以内で答えなさい。

産みっぱなしで何も世話をしないか、

問4 ―②「つめ足類は、南インド、ヒマラヤ、マダガスカル、コンゴ、中南米、オーストラリア、南アフリカ、ニュージーランドに分布している。」とありますが、どうしているいろいろな大陸に分布しているのだと考えられますか。次のア～エから適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア　古代の大陸に住んでいたが、その大陸のかたまりが時代につれて分かれたから。

イ　古代の大陸伝いに時間をかけて様々な地域に分散していったから。

ウ　古代の大陸に住んでいた時の原始的な姿が各地域で保存されてきたから。

エ　古代の大陸が分かれた後、海伝いにすみかを求めて移動していったから。

問5 (C)・(D)に入る語の組み合わせとして適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア	C	らくらく	D	しぶしぶ
イ	C	さっさ	D	じつくり
ウ	C	どんどん	D	ほそぼそ
エ	C	ゆつくり	D	早々

問6 ―③「たいへん効率のよい育て方」とありますが、「胎生」の
どういう点が効率がよいのですか。それがわかる一文を探し、最
初の五字を抜き出さない。

問7 ―④「条件が厳しいと、」とありますが、この「ワラジムシの
一種」にとつての条件の厳しさとはどういうことですか。五十五
字以内で答えなさい。

問8 本文の内容として適当でないものを、次のア～オから一つ選
び、記号で答えなさい。

ア 子育てにおいて、人間の子どもは他の動物よりも手のかかる方
である。

イ つめ足類は、虫を捕まえるとき、粘液を噴射して相手をまひさ
せる。

ウ 新世界に分布するつめ足類は、胎盤を持ち、卵管が子宮の構造
をしている。

エ つめ足類の雌は体が小さいが、一生のほとんどを妊娠してすご
している。

オ 親子や家族のきずなの強さは、認知機能や感情の発達と関わり
がある。

二 次の本文を読んで、後の問いに答えなさい。解答に字数の指定

のある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として数えます。
(本文に一部表記を改めたところがあります。)

小学六年生の佐元良丹華(さもとらにけ)は、兄の逸騎(いつき)
妹の燦空(さんく)と佐元良是明(さもとらこれあき)通称ゼロ先
生の養子として生活している。ゼロ先生は心療内科の医師で、石
塚由衣は、研修医としてゼロ先生のクリニックを手伝っている。

①教室では孤立していた丹華が心から楽しみにしていたの
は、ゼロ先生たちと出かけていく「復興訪問」だった。

ひとり暮らしのお年寄りとおしゃべりし、以前、※仮設でご
近所さんだった人々と会うこともできる。仮設で訪問していた
ときと同様に、いや、あのとき以上に、丹華は※復興住宅に住
む人々からげんきをもらうのだった。

おじいちゃん、おばあちゃんに会うのも楽しみだったし、由
衣に会うのももちろん楽しみだった。

が、実は、丹華がもっとも楽しみにしていたことが、(A)
もうひとつあった。

それは……。

「よお、ニケちゃん、サンクちゃん。元気にしとったか？」
元気よく声をかけてきた男性は、「※NPO法人復興助け合いネ
ットワーク」の代表、片山さんだ。

※大震災後のボランティア活動で、ゼロ先生と知り合った。神戸

市内にある企業に勤務するかたわら、週末にひとり暮らしのお年寄りを訪問する活動を、ここ三年ほど続けている。浅黒い顔が笑うとしわくちやになる、愛嬌のあるおじさんだ。

毎週末、同じ復興住宅を訪問できるようにゼロ先生とスケジュールを合わせて、住宅に住む人びとが交流の場として使っている「コミュニティルーム」で、落ち合うことになっていた。

どきりと②胸を高鳴らせて、丹華は、I思わず肩に力を入れた。そして、「こんにちは」と、笑顔であいさつを返した。それから、急いで、燦空に③耳打ちした。

「なあ、ポニーテールのリボン、※曲がつてへん？」

燦空は、首を横に振って、「曲がつてへんよ」とささやき返した。そして、（B）笑って、

「なあなあ、片山のおっちゃん。今日は、お兄ちゃん、来てへんの？」そう訊いた。片山さんは、「おう、来てるで」と、笑顔になった。

「なんやサンクちゃん、陽太のこと、気になるんか？」

「ううん、あたしやのうて、ニケ姉ちゃんが……」

「何言うてんの、もうっ！」

丹華は、真つ赤になって、燦空の肩を叩いた。「何すんねん。ほんまのことやんか」と、燦空は不満そうな声で言った。片山さんは、にこにこしている。

「おお、わが息子ながらうらやましいわ。こんなかわいい女子ふたりにモテモテやとは……ちよっと待ってや、そのへんにいてくれるはずやから。……って、※おらへんな。どこ行つたんや、あいつ？」

「陽太君やったら、さっきから、裏の運動場で子供たちとサッカーしてますよ」

先に来ていた由衣が、※コミュニティルームの台所から出てきて、言った。

「あ！ゆい姉っつ」と、とたんに燦空が由衣に飛びついた。

「今日も来てくれたんやね、サンクちゃん。ありがとうね」

由衣は、燦空と手をつないで、丹華のところへ来た。そして、「ニケちゃんは来ると思ってたんよ。陽太君も来るようになってたし」

にこにこしながら言った。丹華は、IIますます赤くなつて、

「べ、別に。陽太君が来てるからとかやないもん。おっちゃんに誘われたから……」

「はあ？おれは全然※誘てへんぞ？」かばんからカルテを取り出しながら、ゼロ先生が言った。

「なんや朝からひとりで浮かれとったやないか。今日は『復興』に行く日や、何着ていこか、リボンは曲がつてへんか、とかなんとか」

「あー！※言わんとつてよ、もうっ！」

④丹華がゼロ先生の背中を太鼓でも叩くように両の拳で連打したので、周りにいた人々は、みんな、楽しそうに笑った。由衣は、くすくすと笑いながら丹華に言った。

「ニケちゃん、陽太君を迎えに行つてきてくれる？みんな集まったし、そろそろ訪問して回る時間やで、って」

丹華は、III顔を※上気させたまま、小さくうなずいた。そして、復

興住宅の裏にある、小さな運動場へと駆けていった。

丹華の小さな胸が、リズムカルにときめいている。

もうすぐ、会える。陽太君に、会える。

うれしくて、うれしくて、⑤小走りはスキップに変わってしまいうれしくて、うれしくて、⑥そんな気持ちにさせられた。

運動場で、復興住宅の子供たちと、サッカーボールを追いかけている少年がいた。

短く切った髪、明るい声、さわやかな笑顔。別に、ハンサムなわけじゃない。おしゃれがキマってるわけでもない。だけど、「よっ、元気？」と声をかけてくる人なつつこさ。お年寄りと楽しそうに話をする表情。自分と同じ小六なのに、子供たちにはアニキぶるところ。そのひとつひとつが、丹華のⅣ心に響いた。もつともつと、陽太君のことを知りたい。⑥そんな気持ちにさせられた。

「陽太君！」

思い切って、大声で名前を呼んだ。ボールを蹴る足を止めて、陽太が顔を上げた。

「よお、ニケ！」

笑顔になって、名前を呼んでくれた。ただそれだけで、⑦丹華は、背中に翼が生えたように、舞い上がりそうな気持ちになるのだった。

（原田 マハ 『翔ぶ少女』）

※仮設：仮設住宅。地震で家が壊れた人のために建てられた仮の住

居。

※復興住宅：地震で家が壊れた人のために建てられた仮の住宅。

※NPO法人：経済的な利益を得ることを目的とはせずに活動する特別に指定を受けた団体。

※大震災：1995年1月17日に阪神・淡路地区を中心に起こった地震。

た地震。

※曲がつてへん：曲がつてない？関西の方言。

※おらへん：いない。関西の方言。

※コミュニケーション：行事や講座を開くことのできる大きな部屋。

屋。

※誘てへんぞ：誘ってないぞ。関西の方言。

※言わんとつてよ：言わないでよ。関西の方言。

※上気させた：のぼせて顔が熱くなること。

問1 （A）・（B）に入る語として適当なものを次のア～エからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

（A）

ア ほのかに イ ついに ウ しだいに エ さらに

（B）

ア どっと イ かつと ウ にと エ はつと

問2 ―②―③の意味として適当なものを次のア～エからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

②「胸を高鳴らせて」

ア 望みをかけて

イ 期待でうきうきして

ウ 喜びを爆発させて

エ 希望がなくなつて

③「耳打ちした」

ア しつかり答えた

イ ゆっくり尋ねた

ウ こつそり話した

エ じっくり聞いた

問3 ―①「教室では孤立していた丹華が心から楽しみにして

いたのは、ゼロ先生たちと出かけていく『復興訪問』だった」とありますが、どうして「丹華」は「復興訪問」が楽しみなのですか。その理由として適当なものを次のア～カから二つ選び、記号で答えなさい。

ア 好きな人との待ち合わせの約束を果たせるから。

イ 仮設住宅に住む祖父と祖母に会えてうれしいから。

ウ 復興住宅の人と会うことができて元気がもらえるから。

エ 孤立していた学校生活を休むことができるから。

オ 仮設住宅に住んでいたときの知り合いに会えるから。

カ NPO法人の代表の人との話が楽しいから。

問4 く部Ⅰ～Ⅳとありますが、それらからわかる丹華の気持ちとして適当なものを次のア～オからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

ア 恥ずかしさ イ ときめき ウ 興奮 エ 寂しさ

オ 緊張

問5 ―④「丹華がゼロ先生の背中を太鼓でも叩くように両の拳で連打した」とありますが、どうして「丹華」は、ゼロ先生の背中を、「両の拳で連打した」のですか。三十字以内で答えなさい。

問6 ―⑤「小走りはスキップに変わってしまいそうだ」とありますが、どういうことですか。二十五字以内で答えなさい。

問7 ―⑥「そんな気持ちにさせられた」とありますが、なぜ「そんな気持ちにさせられた」のですか。その理由として適当なものを

次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 陽太に対する不気味さを早く解決したいから。
イ 陽太と丹華の関係を周囲のものが騒ぐから。
ウ 陽太のことを知り尽くさないと不安だから。
エ 陽太への関心が大きくなり続けているから。

問8 ―⑦「丹華は、背中に翼が生えたように、舞い上がりそうな気持ちになるのだった」とありますが、

- (i)ここに用いられている表現技法の種類を次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 直喩^{ちよくゆ} イ 隠喩^{いんゆ} ウ 擬人法^{ぎじんぽう} エ 体言止め

- (ii)また、それはどのような気持ちですか。その説明として適当なもの

- ア 自分の名前を笑顔で呼んでくれたことで、驚きながらも、陽太にも自分への恋心があることを確信した気持ち。
イ 自分の名前を笑顔で呼んでくれたことで、感謝はするが、自分がまるで何か悪いことをしたみたいでいららする気持ち。
ウ 自分の名前を笑顔で呼んでくれたことで、恥ずかしさを感じ、他の人の視線が非常に気になってしかたがない気持ち。

- エ 自分の名前を笑顔で呼んでくれたことで、会えたことの喜びに加えて他とは比べようもない幸せを感じている気持ち。

- 三 次のことわざの①～⑤の()に当てはまる生き物の名前をそれぞれ漢字一字で答えなさい。さらにことわざの意味を次のア～エからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- ① ()も歩けば棒に当たる
② ()の歩み
③ ()心あれば水心
④ 立つ()あとをにごさず
⑤ ()子にも衣装^{いしょう}

- ア 何かをしようとすると、よく災いにあう。逆に幸運にもあうことを言う。

- イ 身なりを整えると立派に見えることのたとえ。
ウ 進み方のきわめて遅いことのたとえ。

- エ 相手の対応次第で、自分の対応も変わるということ。
オ 立ち去るときは後始末をして、きれいにしておくべき。

- 四 次の①～④の組の漢字に共通してつけることのできる部首の名前を、次のア～キからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

例…毎永夜可↓答え…さんずい（海泳液河）

① 立木反共

② 周首刀貴

③ 田自相非

④ 人大木古

ア そうによう イ しんによう ウ りっしんべん

エ にんべん オ こころ カ くち キ くにかまえ